

今週の視点 論点

2 018年は減反見直しの初年ということもあり、稲作への関心がわかに高まっている。そのよ
うな中、今年2月に業界内を衝撃的な
ニュースが駆け巡った。コメの最高プ
ランドとも言われる魚沼産コシヒカ
リの、食味ランキング（日本穀物検定
協会）における「特A」からの陥落で
ある。

今回の特Aには、北海道のゆめぴ
りか、ななつぼし、宮城県のひとつめ
ぼれ、秋田県（県南）のあきたこま
ち、栃木県（県南）のとちぎの星
熊本県（県南）の森のくまさんなど、

全国各地のさまざまな銘柄が並び、
山陰地方では島根県の一つや姫が特A
を獲得した。また新潟県内でも上越、
下越、佐渡の3地域のコシヒカリは
特Aとなっている。

新潟の3地域を含め、全国各地の
コシヒカリが特Aを獲得したにもか
かわらず、トップブランドである魚
沼産コシヒカリが評価を下げたのが
目立つ結果となった。魚沼産コシヒ
カリの品質低下の主な要因は、昨年
8月以降の日照不足と低温にあると
されている。

コメの評価としてよく使われる食
味ランキングとはいったいどのような
ものなのだろうか。食味ランキン
グとは、専門家が「外観・香り・味・
粘り・硬さ・総合評価」の6項目で
食味を評価し、「特A」「A」「A」
「B」「B」の5段階に分けたもので
ある。多くの産地が特Aを目指して
いるように、広く知られたランキン
グである。

一方で、食味ランキングにはいく
つかの弊害も指摘されている。最大
のポイントが、コメの味が白ご飯ベ
ースで評価されている点だ。そのま
ま食べておいしいコメが上位となる

魚沼産コシヒカリの特A陥落で 始まる“コメ戦国時代”



三輪 泰史

日本総合研究所 創発戦略センター
シニアスペシャリスト

みわ・やすふみ

1979年生まれ、広島県福山市出身。東京大学大学院農学生命科学研究科農学国際専攻修了。2004年に日本総合研究所入社。16年4月から現職。農林水産省の食料・農業・農村政策審議会委員をはじめ、中央省庁などの有識者委員を多数歴任。専門は農業再生による地域活性化、先進農業技術の導入支援、農業ビジネスの海外展開支援など。著書に「IoTが拓く次世代農業—アグリカルチャー4.0の時代—」（日刊工業新聞社、共著）など。

構造であり、そのトップにコシヒカ
リが君臨してきた。

しかし、コシヒカリとて万能では
ない。コメは寿司、チャーハン、カ
レーライス、牛丼とさまざまな料理
に用いられるが、それらにはもう少
しあっさりした味で粘りの少ない品
種が適しているという。また、コン
ビニエンスストアのおにぎりのよう
に冷蔵状態でしばらく時間が経過し
た後に食される場合、白ご飯の時と
は味の感じ方が大きく異なる。

最近、それぞれの用途に合わせて
優れた品種が開発されているが、「コ
シヒカリ的な品種」が高く評価され
る現在の評価の仕組みでは、それら
特定用途に特化した優れた品種に光
が当たりにくい。陸上競技でいえば、
100メートルと110メートルとマ

ラソンの選手について、一つの指標
（例えば400メートル走のタイム）で優劣
を決めるようなものだ。

ただ、近年は中食や外食が増加し、
用途ごとにコメを選ぶことが増えて
きた。それに伴い、用途ごとにコメ
を評価する動きも出ている。これか
らは、それぞれの用途と評価軸に従
い、「おにぎり用のブランド米」「寿
司米の最高峰」「カレーライス用コメ
の王者」といった新たなブランド米
が出てくるだろう。

私たち消費者にとっても、自らの
舌で味わい、好みのコメを探すこと
が重要となる。日本酒やワインを嗜
む時は、さまざまな地域の銘柄を試
し、また食材や料理との相性、マリ
アージュを楽しむ。コメにも同じよ
うな「エンターテインメント性」が

眠っているのではないか。いろいろ
な銘柄を食べ比べたり、料理によつ
て銘柄を使い分けたりと、組み合わせ
の妙を楽しむ。そこには単なる主
食としてのコメではなく、コト消費
としてのコメがある。コメは私たち
日本人の主食だ。コメを大いに楽し
む、それが日々の食卓に新たな価値
をもたらす、結果として日本農業の
再浮上にもつながる。

今回苦杯をなめた魚沼産コシヒカ
リも、巻き返しに向けてさっそく対
策を講じているという。魚沼産コシ
ヒカリの復権に大いに期待したい。
加えて、各地の気候風土や食文化を
踏まえ、地域の特徴に富む新たなブ
ランドも台頭するだろう。今年の秋
はこれまで以上に多種多様で高品質
なお米を楽しむことができそうだ。

本欄は、多胡秀人氏（地域の魅力研究所代表理事）、渡邊
准氏（地域経済活性化支援機構常務取締役）、井上久男氏
（ジャーナリスト）、橋本卓典氏（共同通信記者）、小林美希
氏（ジャーナリスト）、三輪泰史氏（日本総合研究所創発戦
略センターシニアスペシャリスト）が交代で執筆します。



「人工知能（AI）」と新時代 どう変わる生活、ビジネス

富士通（株）常務理事 中山五輪男氏

講師略歴 1964（昭和39）年、長野県生まれ。法政大工学部卒業後、
ソフトバンク社などを経て、2017年から現職。主に全国で講演など
を通じてビジネスユーザーへの訴求活動を実践している。国内30以上の
大学で特別講師を務める。各種書籍の執筆、TV出演も多い。

■島根政経懇話会 第301回定例会

日時 7月18日（水） 正午〜午後2時
会場 ホテル一畑（松江市千鳥町）

■米子境港政経クラブ 第260回定例会

日時 7月19日（木） 正午〜午後2時
会場 米子ワシントンホテルプラザ（米子市明治町）

入会などの問い合わせは山陰
中央新報政経懇話会事務局（☎
0852・32・3477）、または
HPをご覧ください。